



CSR経営評価意見書

京阪電気鉄道株式会社 御中

2008年6月16日
株式会社 環境管理会計研究所

國部克彦

國部克彦 (神戸大学大学院教授/取締役)

梨岡英理子

梨岡英理子 (取締役/公認会計士・税理士)

1. 意見書の目的

京阪電気鉄道の事業と関係のない第三者として、同社が作成する「CSRレポート2008」に記載されているCSR経営活動の評価を行うことにより、報告書の信頼性を高めることを目的として所見を述べます。

2. 実施した手続き

京阪電気鉄道のCSR経営活動がどのように計画され実行されているのか、その結果であり開示情報の基礎でもあるパフォーマンスデータが、どのように作成され、評価され利用されているのかについて、上田成之助社長へのインタビューを行うとともに、鉄道事業部をはじめ社内各部門・事業所を訪問し、関連書類の調査や各担当者への質疑を行いました。また寝屋川車両工場他では公表される数値の根拠資料について定められたシステムどおりの作業が行われているか、必要に応じて財務監査の手続きに準拠した手法を用いて基礎的な審査を行いました。(今回訪問した部署・訪問場所は別表参照)

3. 評価意見

京阪電気鉄道のCSR経営は、「京阪グループ経営理念」をベースに経営トップ自らが率先して推進されています。「選ばれる京阪」への挑戦」という経営ビジョンを掲げ、この実現に向けた取り組みが行なわれています。

安全への取り組みに関しては、安全・安心の輸送確保を最優先とする「安全基本方針」を掲げ、経営トップの関与を強化した安全マネジメント体制の見直しも含め、全社で積極的な取り組みが行なわれています。安全の確保には、経営層と現場サイドとの良好なコミュニケーションが欠かせません。風通しの良い職場風土づくり実現に向けた全社一丸となった取り組み姿勢は評価できます。

CSR活動および社会への取り組みに関しては、各種ステークホルダーの満足度を高める取り組みが始められており評価できます。今後は、京阪電気鉄道としてのCSRビジョンを明確にした体系的な活動が望まれます。そのうえで、CSR目標の設定、結果の開示など、CSRマネジメントの構築が期待されます。

環境への取り組みに関しては、鉄道事業を通じた環境負荷低減に取り組まれています。2007年度は、ほぼ目標を達成されています。今後は、新線の開業にともない使用電力量の増加が見込まれることもあり、より長期的視点に立った環境目標の設定と企業姿勢の表明が必要になると思われます。なお、環境パフォーマンスデータの算出について、上記の手続きに従って基礎的な審査をした範囲では重大な間違いは認められませんでした。